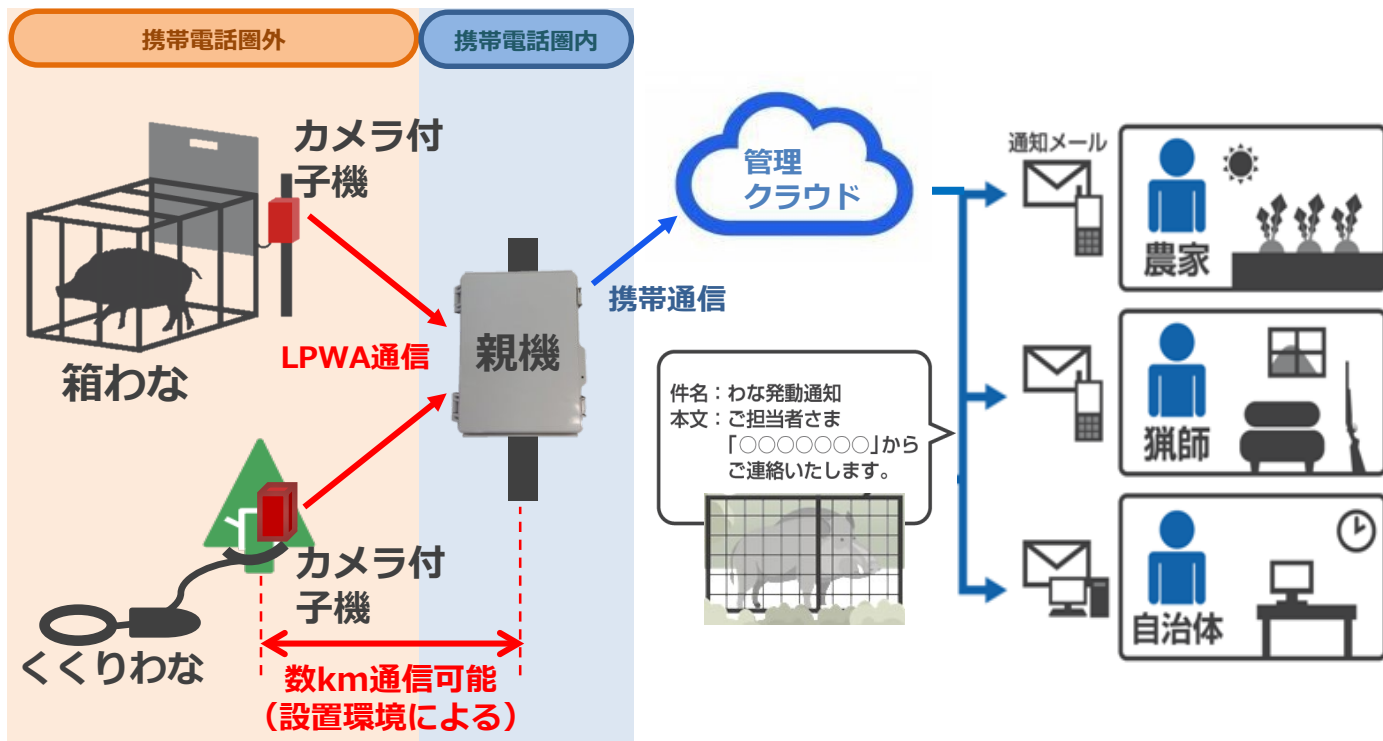


親機・子機間をLPWA通信*で延長することで、従来の装置では監視できなかった携帯電話圏外のわなも監視可能に

LPWA版有害鳥獣捕獲監視サービス

*LPWA:少ない消費電力でkm単位の距離でも通信ができる無線通信技術

有害鳥獣を捕獲するわな(箱わな・くくりわな)に有害鳥獣捕獲監視装置の子機を取り付けるだけで、わなが作動したことをメールと写真でお知らせしてくれます。メールの通知先は事前に5カ所まで設定可能で、わなが作動した直後の写真により、ご自宅や事務所などから害獣の種類や大きさを確認することができます。



特徴

携帯電波圏外でも利用可！

これまで監視できなかった携帯電波圏外のわなに子機を設置することで、わなの監視範囲が広がります。携帯電波圏内の親機と子機間の距離は設置環境にもよりますが、数km以内です。

みまわり労力を大幅に軽減！

わなが作動すれば写真とメールが届くので、毎日みまわる必要はありません。届いた写真で害獣の種類や大きさが判るので、必要な装備の持参も事前に判断できます。

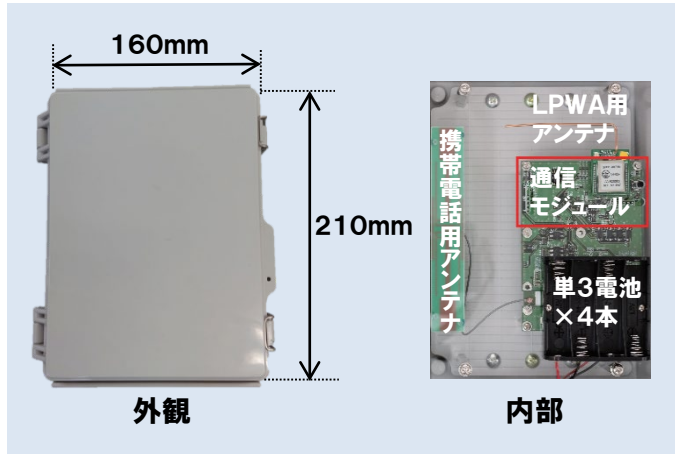
通信料は親機のみ！

通信料が発生するのは、親機のみ。子機と親機間の通信は、通信料不要のLPWA通信を使用します。親機1台に子機は最大30台まで接続可能です。

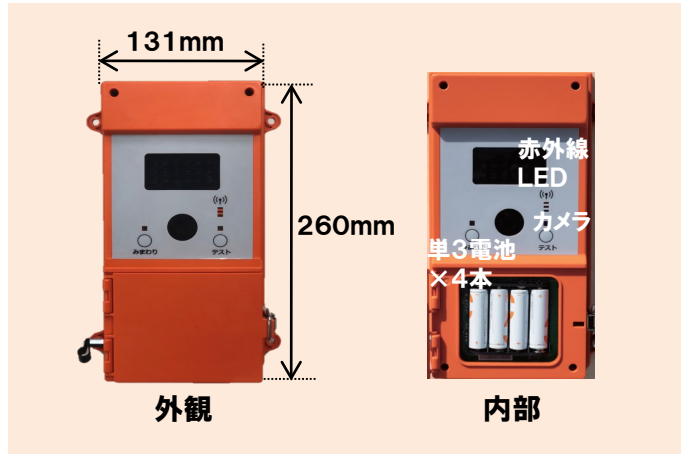
捕獲実績の見える化！

捕獲情報(位置・捕獲写真・時間等)はクラウド上で一元管理されており、過去の情報を分析することで、地理的な傾向・害獣の活動状況などを把握できます。また、報告書の自動作成機能で事務手続きの手間を軽減可能です。

監視装置(親機)



監視装置(子機)



よくあるご質問

質問	回答
監視装置の電源はどうなっていますか。	監視装置の親機と子機は乾電池で作動します。 親機は単三乾電池4本で約5ヶ月間*稼働し、子機は単三乾電池4本で約10ヶ月*捕獲情報を通知します。 * 3日に1回通知した場合
監視装置の親機・子機間のLPWA通信の確認はどうするのですか。	親機・子機、それぞれにLPWA通信の受信感度を確認できるLEDが付いていますので、設置時に簡単に確認できます。
LPWA通信に免許は必要ですか。	免許は不要です。
監視装置の設置はお願いできますか。	お客さまご自身で設置いただいております。設置は非常に簡単で、ポール等に設置する際のアタッチメントが付いています。

料金

		初期料金(税別)	年間利用料金(税別)
LPWA版 有害鳥獣捕獲監視装置	親機	135,500円	10,000円
	子機	53,000円	5,000円

(注)LPWA版有害鳥獣捕獲監視サービスをご利用いただくためには、有害鳥獣捕獲監視装置の親機と子機をご購入いただき、年間利用料金をそれぞれお支払い頂きます。(親機だけではわなの監視は行えませんのでご注意ください)



STNetのIoTに関するお問い合わせはこちらまで

iot@stnet.co.jp

※ご回答は営業時間内(平日9:00-17:00)となります。

TEL: 087-887-2403 (ビジネスサービス企画部 情報サービス企画課)
ホームページ: <https://www.stnet.co.jp>